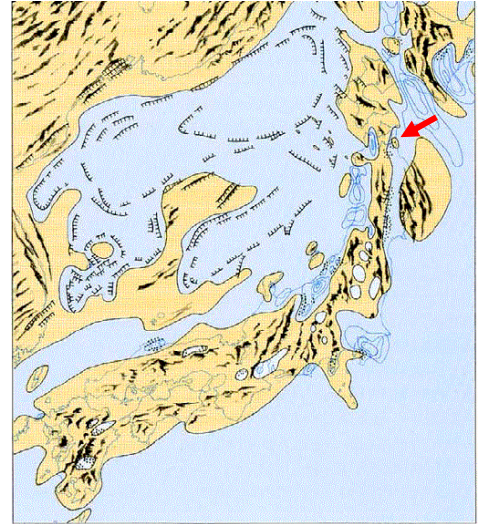


【日程】9:30 泊漁業協同組合前駐車場集合①日程説明②9:45 泊海岸見学：弥次郎穴・大滝やタタミ岩・溶岩の貫入、ぼっとあげ、白砂、猿岩と鷹架層、大穴洞窟とコウモリ観察 11:30 フノリ採り 12:30 現地解散



1 泊海岸の地史について

新生代新第三紀中新世(約2,303万年前から約533万年前まで)は、日本がユーラシア大陸から分離し、日本海が形成され、これに伴う海底火山活動で日本各地にグリーンタフと呼ばれる凝灰岩層が発達した。泊海岸では、崖や海岸の岩場に、海底火山噴出物が広がっている。凝灰角礫岩や枕状溶岩・岩脈を見ることができる。泊層：約1,600万年前～1,500万年前)



新第三紀・鮮新世の古地理(600万年前～300万年前まで) 鮎野(1975)による『日本海と大和堆』から引用

2 泊海岸で見られる岩

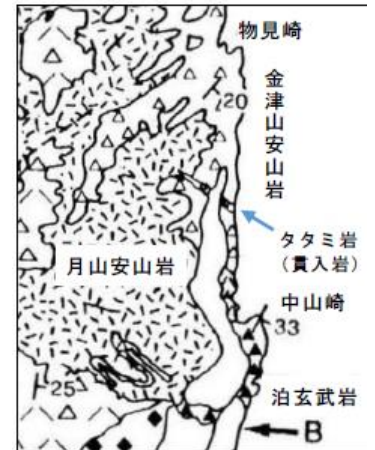
(1) 泊海岸の火山岩(凝灰角礫岩)

水中でマグマが噴出して形成された火山岩や火山砕屑岩が堆積してできた。現地性と再堆積性がある。南から中山崎は泊玄武岩、泊リアス海岸は金津山安山岩、月山周辺は月山安山岩、山側には海成段丘があり、扇状地及び河川堆積物が見られる。



旧火山の分布

出典：国土地理院地図一部加筆



泊火山岩の分布

(2) 中山崎の枕状溶岩(冷却節理)・縄状溶岩

枕状溶岩は、チューブ型の玄武岩質の溶岩。

- ① チューブの中が空洞のものもある。外側が冷え固まり、中が流れ出ることができる。
- ② 急に冷えてできた放射状のひび割れ・冷却節理も見られる。



中山崎



枕状溶岩

- ③ チューブの先端は丸くなっている。
- ④ バラバラになって凝灰角礫岩に含まれている。
- ⑤ 溶岩が流れた様子がわかる縄状溶岩も観察できる。
- ⑥ マグマの圧力で枕状溶岩の表面を覆うガラス質の殻が破れた跡も観察できる。



縄状溶岩

2 泊海岸観察ポイント



観察ポイントの位置
出典：国土地理院地図一部加筆

焼山大橋の下に駐車し、弥次郎穴から大穴洞窟まで約810m。往復約2時間でまわれます。フノリ採りは、漁協駐車場の駐車マークPの位置です。



1 弥次郎穴：火山砕屑岩（さいせつがん）の割れ目が、波によって浸食された海蝕洞のトンネル。穴の形が、アニメキャラクターのトトロが横を向いている姿に似ているとSNS上で話題となっている。枕状溶岩や亀裂（断層？）を観察できる。



2 滝の尻大滝：海拔約10mのところ約7mの滝がある。海成段丘の上から流れ落ちていて、古い滝つぼも確認できる。約7,000年前から約9,000年前の縄文海進により波で削られ、その後、隆起して現在の姿になったと考えられる。



3 タタミ岩：柱状節理が発達した玄武岩質安山岩の貫入岩。タタミ岩は、横に柱状節理が入っていて、畳のように見えることから名付けられた。通常、縦に節理が入るが、珍しい。横の端では、板状節理と五角形や六角形の柱のような形の節理が見られる。



4 ぼっとあげ（ポッチ：潮吹き穴）：岩山からの割れ目（断層）の弱いところが波によって浸食され、二つほど穴があき、波が打ち寄せると、その穴から約7m～8mもの潮が吹きあがる。江戸時代の旅行家菅江真澄も旅行記（おぶちの牧）の中で記載している。



5 猿岩：波による浸食で、サル顔やしゃれこうべのように見える岩山。下部に鷹架層（約1,600万年前）の砂岩層との互層となっている。周辺の海岸では、様々な形に見える岩山があり、また、波が引くと現れる陰顕岩も見られる。



6 白砂：岩場が続くりシラス海岸の中で、ここだけが白い砂浜が広がり、江戸時代の絵図にも記載されている。この砂浜では白砂川や滝も見ることができ。この河岸段丘上にある扇状地からの伏流水が、川となり海に注ぎ込んでいる。なぜ白いのかは調査中。鷹架層の白い砂岩が浸食されたかも？



7 大穴洞窟（牛穴）：古墳時代から平安時代にかけての人骨3体が出土（7か月と10歳と50歳代の人骨）。昔、放牧していた牛がいなくなり、横浜側で見つかった伝承から牛穴ともいわれている。キクガシラコウモリを観察することができる。

※写真は、郷土館職員撮影